

越百山・南駒ヶ岳

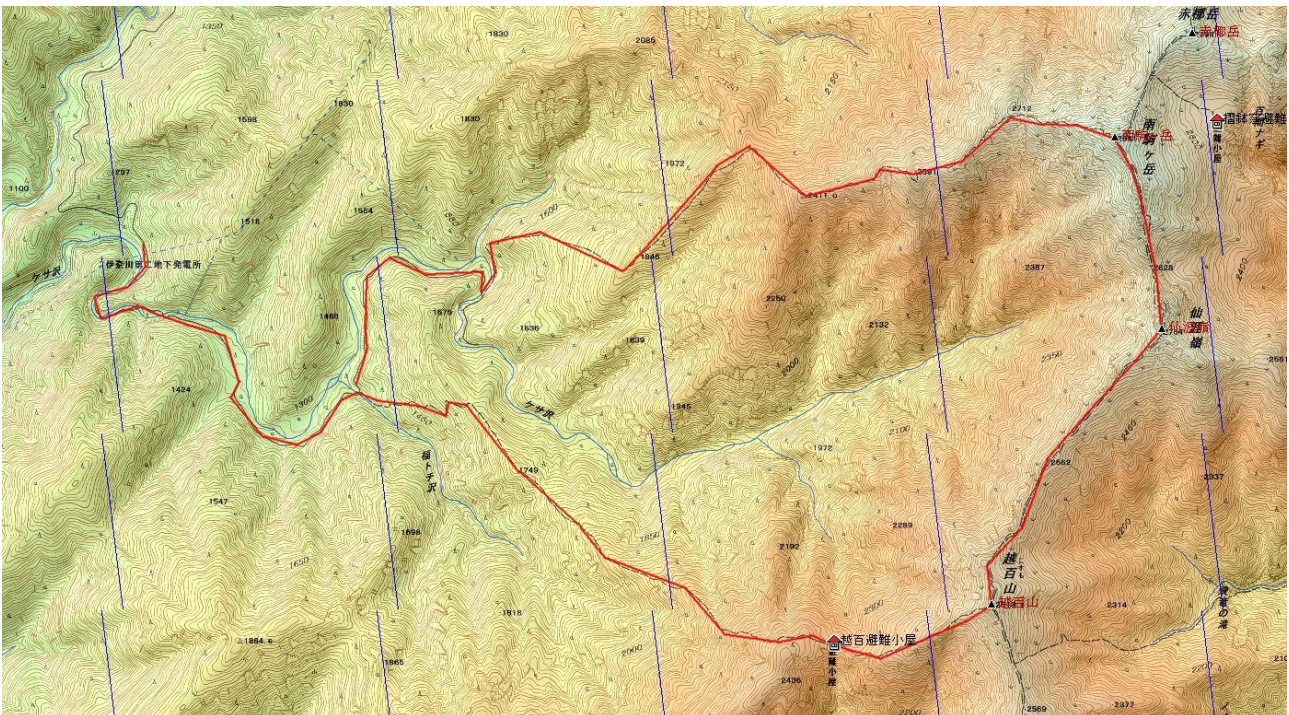
【日程】2014年8月2日～2014年8月3日

【エリア】中央アルプス

【形態】縦走

【メンバー】K、I田、M西、M本、I

【報告】I



《ルート／タイム》

8月2日（土）

高の原（6：00）～伊那川ダム駐車場（10：20/10：45）～百山登山口（11：45）～上の水場（14：30）
～越百小屋（15：40）

8月3日（日）

越百小屋（5：30）～越百山（6：25/6：40）～仙涯峰（7：50）～南駒が岳（9：20/9：45）～登山口
（13：05）～駐車場（14：30）

《報告》

5年前の山行に参加出来ず、その後、数回計画していただいたがすべて天候不良のため中止になっていた念願のコースです。相次ぐ台風の接近でまた中止かと心配していましたが、今回無事に終えることが出来ました。

一日目（8月2日）

中央アルプスは木曾側から登るのは初めてで、静かで新鮮なルートにわくわくでした。伊那川ダムの上の駐車場は満車でした。車をバックさせて直ぐ下の駐車場に止めましたが、そこも沢山の車が止まっていました。ここから私たちのように越百山～南駒ヶ岳を周回するコース以外に空木岳までのピストンまたは日帰りで南駒ヶ岳・越百山までの登山者があるため駐車場も一杯なのだなあと感じました。

初日は小屋までの短いコースでしたが、体力不足の為、快調なI氏やM本氏の後ろを必死でついて行く始末でした。M西氏ならびにK氏は睡眠不足と日頃の疲れとかで私の後に歩かれていました。



「下のコル」「上のコル」を過ぎると急登になり、展望台から少し登ったところの最後の水場で冷たい美味しい水を補給しました。

原生林の間から塗りたての赤と黒の鮮やかな小屋が見えた時には本当に嬉しかったです。小屋は小さなスペースに建てられていますが、3階までのスペースがあり1階と3階が寝室で、2階が食堂兼談話室になっています。その隣に以前避難小屋にされていた小さな小屋があり本館小屋に入る為の着替えや荷物置き場と衣類の乾燥室になっていました。今まで山小屋を利用していますが他の山小屋ではないような規則が徹底されて

います。ここでは、小屋に入る前には服装を着替える。本館小屋に持ち込み出来るのは貴重品・ヘッドランプ・飲み物のみ。これらの私物をビニール袋に入れるのも禁止。飲み物は寝室には持ち込み禁止。小屋内・小屋外では禁煙。夕食の準備が出来るまで本館小屋への入室は出来ません。小屋はご夫婦二人で切り盛りされていて、スペース的にも宿泊者数が二十名ほどと少なく、ご主人は規則にいつも目を光らせている感じでした。「守れない人は帰ってもらって結構です」ときっぱり言われる。

しかし、狭いながらも隅々まで清潔感があり、整理整頓が行き届き、おもてなしの心が伺えました。宿泊費が9千円と小屋の規模からすると高いように思いましたが、食事も満足のいく温かいものを感じました。ご夫婦とも忙しそうに



動き回っておられ、会うたび持ち物や行動にチェックを入れられるという始末でした。夜は久しぶりにお酒の好きなメンバーだったのか、ビール、日本酒、焼酎（900ml）、泡盛を空っぽにして大いに盛り上がりました。

二日目（8月3日）

夜中にひと雨あったようでしたが天気はまずまずで小屋から南駒ヶ岳や越百山の稜線が望めました。小屋の前で記念撮影し行動開始。昨日、快調だったM本氏は二日酔いだと言いながらもI氏にビタッと付く。さすが～。I氏は昨日より快調、M西氏とK氏も今日は快調のようでした。



樹林帯を過ぎたあたりに雲海の中に御岳、乗鞍岳から焼岳の稜線が望まれました。そして、越百山の頂上に着いた時も東側に南アルプスの稜線がくっきりと開けていました。その背後に富士山も顔を覗かせている大パノラマに一同大感激でした。

仙涯峰から南駒ヶ岳へこれから行くルートが北に伸びているのがよく分かります。砂地の白い山肌、低いハイマツの濃い緑、折り重なるような岩、素晴らしい景色です。

このコースでのお花はあまり期待していませんでしたが、仙涯峰の手前にウスユキソウの発見から始まり、南駒ヶ岳に近づくにつれて稜線の東面には花が咲き乱れています。知っている花だけでも、イワカガミ・フウロ・ミヤマダイコン・クロユリ・ヨツバシオガマ・カラマツ

ソウ・ハクサンチドリ。すでに咲き終わっていたチングルマの実が揺れて優雅でした。その他名前の分からないいろんな花が入り乱れて咲いていました。なんと自然な風情で、花の百名山だと大感激でした。

キバナシャクナゲが縦走路のいたるところに咲いていたのも印象的でした。また、樹林帯の木陰にギンリョウソウが可憐に咲いていました。

このコースの登山者は少なく縦走中に会ったのは数名で南駒ヶ岳



山頂では昨夜夕食時に同じテーブルで談話した三百名山挑戦中のご夫婦と単独者だけでした。しばらく私たちは貸切の山頂で写真を撮ったりしていましたが、ガスが出てきてポツリポツリと雨が降ってきたので先を急ぐことにしました。

西に伸びる下山ルートは2500メートル辺りまではハイマツがルートをつさぐように伸び、花崗岩が積み重なった尾根で大岩を巻いてヤセ尾根に出るなどルートがはっきりしないところがあったりで私は歩行に苦労しました。それ以降は、樹林帯の

歩きやすい登山道でしたが急な下り坂が続き登山口に着いた時は、全員ぐったりと疲れて腰を降ろしてしまいました。長い林道歩きが一時間半ほどありましたが、9時間の縦走登山の心地よい疲れと強い陽射しに苦しめられることも無く一同感謝でした。

温泉で汗を流し、美味しいカツ定食を食べ帰路に着きました。

